



《図一》ミメぐりのせいらん



《図二》柱部分



「風流隅田川八景 ミメぐりのせいらん」(横小判) 文化(1804~18)初年頃

十世紀の中国(北斎)で、美しい景色を八つ選んで山水画に描くようになり、周辺の国々でも八景の選定が流行しました。日本でも「近江八景」が有名です。北斎は近江のほか、琉球や江戸の八景も描きました。その一つがこの「風流隅田川八景」です。

隅田川八景

～ 三囲神社 ～

の美人ですが、社殿そのものは描かれず、画面左端と美人の後ろに見える、鳥居の柱部分《図二》だけで表現されています。三囲神社は墨堤の下にあり、対岸から見れば鳥居の上部しか見えないため、江戸の人々は、この鳥居を「堤下の大鳥居」の愛称で呼び、三囲神社の目印にしました。また、「せいらん(晴嵐)」とは、八景の題材の一つで、春や秋に霞がかかった風景をいいます。



【発行】
墨田区区民活動推進部
文化振興課
北斎美術館開設担当
(墨田区役所1階)
☎03-5608-6115
【編集協力】
(公財)墨田区文化振興財団
北斎事業課



すみだ北斎美術館の建築計画説明会を開催しました

すみだ北斎美術館の建設に先立ち、近隣住民の皆様を対象に、1月18日(金)と19日(土)に、家庭センターで「墨田区中高層建築物の建築に係る紛争の予防及び調整に関する条例」に基づく建築計画説明会を開催しました。

参加された方々からは、建物の外観や緑町公園に関すること、駐車場に関すること、開館後の運営に関する質問などがありました。



すみだ発!
北斎
オリジナルグッズ
③

株式会社片岡屏風店
北斎屏風

墨田区では、区内でものづくりに携わる方々の商品開発の一助となるように、すみだ北斎美術館(平成二十七年開館予定)に収蔵する北斎作品の画像を商用目的でご利用いただく事業を行っています。

今回、紹介する「すみだ発!北斎オリジナルグッズ」は、北斎作品の画像をプリントした屏風です。

北斎の代表的な版面を仕立てた二曲屏風は、「すみだ」の職人の技が注ぎ込まれた一品です。

高さ約二十八センチメートルのコンパクトサイズなので、部屋のインテリアとして最適です。



【商品に関する問い合わせ】
株式会社片岡屏風店

△03-3622-4470

【画像利用に関する問い合わせ】

(公財) 墨田区文化振興財団

△03-3829-4122

北斎ゆかりのお寺

柳嶋妙見山法性寺

(墨田区業平五丁目7番7号)

北斎は熱心な

日蓮宗の信者で、

とりわけ柳島の

妙見様を深く信

仰していました。

妙見とは、妙見

大菩薩のことで、

北斗七星の化身

とされています。

別称は「北辰」

とか「七政」ともいわれたことから、自身の

名も「北斎辰政」としたといわれています。

またある時、柳島の妙見様へ詣でた帰

り道で、北斎の近くに雷が落ちたことがあ

りました。驚いた北斎は、田圃の中に転げ

落ちてしまったそうです。しかし、間もな

く不思議なことが起こりました。北

斎の描く絵が売れたのです。こ

れも妙見様のご霊験と信じた北斎は、

名を雷震と名乗ったとも伝えられて

います。



明治時代の柳嶋妙見